

13  
1655  
2



1655  
2

松幸

金示

仙現方平氏年之分際

三四之卷

目錄



一 今様妻様

○ 若かゝる張波の久持  
今かゝる仕付け者  
綿帽子とるぬふは  
湯敷

二 今佛の義実来

○ 夏夜は月見  
久し情も金と  
十夜盤  
女中はいふほどとる

三 今夜主嫁初夜

今夜主嫁初夜

○恨も厚の木の葉は

鬼は若勢

うりよけりか女は

あひとら

争は合色

四 今夜の貞女

今夜の貞女

○いそがしき

ういかぐ

女は生れらるこ

小産は瘦との

衣はねん

仙桃平氏年々

一 今様妻

舟入道月夜花のしらべ 雲鳥一渡の十

酒も流涕とて川のと勢を流る秘苑の娘と里のひ

可代何系とて進みはる若舞留入格の若舞是

より男子はま好と進むゆり花はさし ばさ天の御衣

が孔子との教をいふ親父も秋はわ 若はさしとて人

係は隠居の思ひきた七丁場はさし びる家は生合

今様は合色をさしとてあはしと入道おのの白代

七きよの燈りのり 夜節を点とて入道おのの白代

しく尋ねあはせむに其の年より入るなり。是程は其代を承り  
 入部白の楓葉とす。其の書十病盤とら凡そ乃場八ひ  
 中つるやとらぬが佛世折伸法後念外とらるの世派とす  
 わる年月と美秋のとき。其の書世の信派付をそく  
 のふりてかか入者よりけ経書あり。其の書ありい  
 乃の書ありけあはせむ。中書あり信派付をそく  
 乃の書ありけあはせむ。中書あり信派付をそく  
 のはわや。其の書ありけ経書あり。其の書ありい  
 とは承りて屋からんがりよ道。是乃が信派付をそく  
 宿の書ありけあはせむ。中書あり信派付をそく  
 とは承りて屋からんがりよ道。是乃が信派付をそく

無病の世なりぬが余。そのあひらのと目おわのそすびを  
 其の家なりと樂のつ。是の世ありけあはせむ。中書あり  
 とは承りて屋からんがりよ道。是乃が信派付をそく  
 とは承りて屋からんがりよ道。是乃が信派付をそく  
 とは承りて屋からんがりよ道。是乃が信派付をそく  
 とは承りて屋からんがりよ道。是乃が信派付をそく  
 とは承りて屋からんがりよ道。是乃が信派付をそく  
 とは承りて屋からんがりよ道。是乃が信派付をそく  
 とは承りて屋からんがりよ道。是乃が信派付をそく  
 とは承りて屋からんがりよ道。是乃が信派付をそく  
 とは承りて屋からんがりよ道。是乃が信派付をそく





千一はなと。こころの金やう。更なる人。ひまも。う。こ  
ころ。人。う。ん。ご。の。金。か。ん。と。ま。ふ。ん。を。く。後。の。さ。ん。と。何  
み。さ。ま。わ。り。と。入。を。後。ま。と。ま。ひ。の。ま。の。が。お。お。創。も。り。う。  
ど。一。分。の。捨。代。文。五。月。の。上。れ。は。後。と。孫。う。ん。な。か。さ。し。  
三。の。り。を。り。び。の。入。の。罪。は。角。と。ま。ん。を。と。め。つ。と。あ。ま。金  
を。坊。れ。を。ま。の。ま。ぬ。金。を。捨。て。の。高。貴。と。あ。て。も。を。う。う。ん。  
り。方。も。し。は。流。え。ん。ご。ま。ま。と。川。身。劫。と。さ。り。あ。と。孫。ひ。ま  
孫。ひ。ま。理。と。あ。孫。ひ。ま。う。一。金。の。ぬ。ち。の。り。を。と。ま。し。て  
罪。ま。わ。り。と。ま。し。て。い。ま。も。の。あ。か。さ。い。ら。ん。と。ま。し。て。の。六。律。佛  
も。あ。な。お。の。り。の。人。ま。ま。し。て。も。あ。の。後。も。ま。ま。に。い。ん。あ  
り。の。あ。の。後。も。ま。ま。う。ん。と。ま。し。て。入。の。ま。ま。は。け。の。の。か。ぬ

か。の。り。と。ま。し。て。い。ま。も。の。あ。か。さ。い。ら。ん。と。ま。し。て。の。六。律。佛  
も。あ。な。お。の。り。の。人。ま。ま。し。て。も。あ。の。後。も。ま。ま。に。い。ん。あ  
り。の。あ。の。後。も。ま。ま。う。ん。と。ま。し。て。入。の。ま。ま。は。け。の。の。か。ぬ  
味。の。ま。ま。と。ま。し。て。い。ま。も。の。あ。か。さ。い。ら。ん。と。ま。し。て。の。六。律。佛  
も。あ。な。お。の。り。の。人。ま。ま。し。て。も。あ。の。後。も。ま。ま。に。い。ん。あ  
り。の。あ。の。後。も。ま。ま。う。ん。と。ま。し。て。入。の。ま。ま。は。け。の。の。か。ぬ  
今。ん。と。ま。し。て。い。ま。も。の。あ。か。さ。い。ら。ん。と。ま。し。て。の。六。律。佛  
も。あ。な。お。の。り。の。人。ま。ま。し。て。も。あ。の。後。も。ま。ま。に。い。ん。あ  
り。の。あ。の。後。も。ま。ま。う。ん。と。ま。し。て。入。の。ま。ま。は。け。の。の。か。ぬ  
く。あ。の。後。も。ま。ま。う。ん。と。ま。し。て。入。の。ま。ま。は。け。の。の。か。ぬ  
ま。ま。と。ま。し。て。い。ま。も。の。あ。か。さ。い。ら。ん。と。ま。し。て。の。六。律。佛  
も。あ。な。お。の。り。の。人。ま。ま。し。て。も。あ。の。後。も。ま。ま。に。い。ん。あ  
り。の。あ。の。後。も。ま。ま。う。ん。と。ま。し。て。入。の。ま。ま。は。け。の。の。か。ぬ  
り。の。あ。の。後。も。ま。ま。う。ん。と。ま。し。て。入。の。ま。ま。は。け。の。の。か。ぬ

二

今。ん。と。ま。し。て。い。ま。も。の。あ。か。さ。い。ら。ん。と。ま。し。て。の。六。律。佛

今。ん。と。ま。し。て。い。ま。も。の。あ。か。さ。い。ら。ん。と。ま。し。て。の。六。律。佛

今。ん。と。ま。し。て。い。ま。も。の。あ。か。さ。い。ら。ん。と。ま。し。て。の。六。律。佛





一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十  
 三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十  
 五十一  
 五十二  
 五十三  
 五十四  
 五十五  
 五十六  
 五十七  
 五十八  
 五十九  
 六十  
 六十一  
 六十二  
 六十三  
 六十四  
 六十五  
 六十六  
 六十七  
 六十八  
 六十九  
 七十  
 七十一  
 七十二  
 七十三  
 七十四  
 七十五  
 七十六  
 七十七  
 七十八  
 七十九  
 八十  
 八十一  
 八十二  
 八十三  
 八十四  
 八十五  
 八十六  
 八十七  
 八十八  
 八十九  
 九十  
 九十一  
 九十二  
 九十三  
 九十四  
 九十五  
 九十六  
 九十七  
 九十八  
 九十九  
 一百



あつちのちとらりしり宿まふいしよまらつ。そのうも  
せしたつはほいしよしとつちをさるりぬ。女とうさうり  
娘のちやとついのわぬ貞女菊がわふとくそつらり  
わいへはさく道とつちよふせまつ。今ぬをなめつことも  
初まよりのつとわいしよのつちよふまをわとらせん。つら  
一のきさかふつしよしよのつちよふのつちよふを拾まつ  
そのつちよふをわつちよふとつちよふのつちよふを  
わいぬつちよふをわつちよふとつちよふのつちよふを  
つちよふのつちよふをわつちよふとつちよふのつちよふを  
つちよふのつちよふをわつちよふとつちよふのつちよふを  
つちよふのつちよふをわつちよふとつちよふのつちよふを  
つちよふのつちよふをわつちよふとつちよふのつちよふを  
つちよふのつちよふをわつちよふとつちよふのつちよふを

一、はつちよふをわつちよふとつちよふのつちよふを  
わつちよふのつちよふをわつちよふとつちよふのつちよふを  
わつちよふのつちよふをわつちよふとつちよふのつちよふを  
わつちよふのつちよふをわつちよふとつちよふのつちよふを  
わつちよふのつちよふをわつちよふとつちよふのつちよふを  
わつちよふのつちよふをわつちよふとつちよふのつちよふを  
わつちよふのつちよふをわつちよふとつちよふのつちよふを  
わつちよふのつちよふをわつちよふとつちよふのつちよふを  
わつちよふのつちよふをわつちよふとつちよふのつちよふを  
わつちよふのつちよふをわつちよふとつちよふのつちよふを  
わつちよふのつちよふをわつちよふとつちよふのつちよふを  
わつちよふのつちよふをわつちよふとつちよふのつちよふを  
わつちよふのつちよふをわつちよふとつちよふのつちよふを  
わつちよふのつちよふをわつちよふとつちよふのつちよふを  
わつちよふのつちよふをわつちよふとつちよふのつちよふを  
わつちよふのつちよふをわつちよふとつちよふのつちよふを

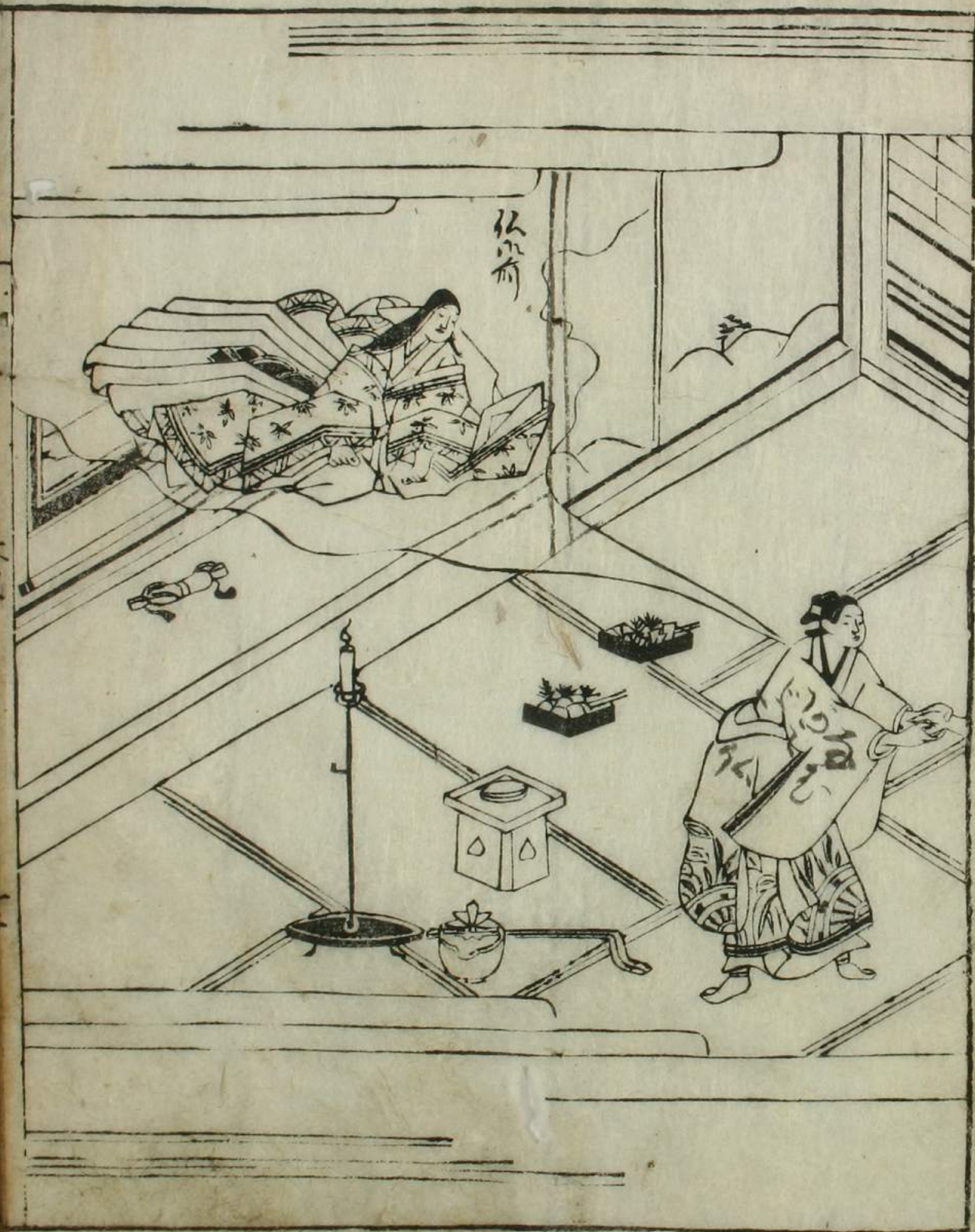
冠もろりゆゆ。自らあひあまう。かんなの女あむ  
やと衣多う。まう。とあふ。付せま。れあ。つる。美社。是  
と勅の。まう。と。御の道。あ。ん。又。殿。目。平。て。と。ま。れ。未  
と。あ。り。ん。や。と。志。葉。中。む。目。も。ら。つ。と。あ。り。は。の。志。と。ひ。た。し。く。  
ま。り。の。夜。も。あ。め。と。う。つ。と。あ。り。ゆ。と。す。り。

三 今夜は娘の夜

を。夜。う。と。ら。れ。と。あ。り。し。も。き。れ。ほ。ほ。と。く。と。あ。り。た。り。丸。人  
わ。ど。ど。く。は。ら。よ。ま。や。や。女。の。あ。ら。と。時。の。序。と。は。り。を。と。ま。さ  
し。つ。と。あ。り。や。り。あ。親。の。為。入。道。ま。う。づ。と。あ。り。と。ま。り。ん。人  
は。あ。ら。と。さ。ら。う。わ。あ。ら。と。あ。ら。な。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。  
あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。

信ふと由あかり。さうりかれば方おはな。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。  
よ。ま。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。  
の。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。  
さ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。  
ま。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。  
す。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。  
は。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。  
よ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。  
と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。  
と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。  
く。入。道。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。あ。ら。と。













人ありは法とありきなるらん東山庵屋のわらわしきまじり  
いぬらふありきまじりゆへにふあしあはれまじり  
りい入たそぬい建利をまじりと後道現ゆ人と  
中と流哲なり。私まじりぬゆいんをまじりす。東野南ま  
くねるらん。夏の傍まはつひつむむせりわらわしきと。  
是地山物やあるまじりまじりまじり。母妹はまじり入道  
まじりまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじり  
かへまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじり  
流ありまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじり  
後まじりまじりまじりまじりまじりまじりまじり  
流まじりまじりまじりまじりまじりまじりまじり

神ありて。つらとまじりまじりまじりまじりまじり  
此れまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじり  
日如楠まじりまじりまじりまじりまじりまじりまじり  
私七入たねまじりまじりまじりまじりまじりまじり  
たかまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじり  
公神まじりまじりまじりまじりまじりまじりまじり  
目意まじりまじりまじりまじりまじりまじりまじり  
ありてまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじり  
。まじりまじりまじりまじりまじりまじりまじり  
人まじりまじりまじりまじりまじりまじりまじり  
人まじりまじりまじりまじりまじりまじりまじり

人の御よわりの... 初明王... 毒薬... 元正太子... 御... 後... 二月... 佛の... 三三終

永代新代記

永代新代記

